2026 年 11 月 10 日
三井化学株式会社
株式会社プライムポリマー

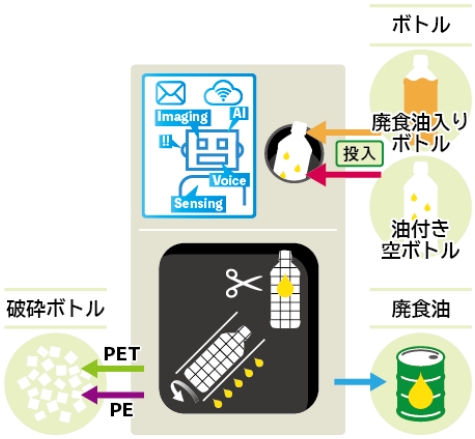
三井化学、横浜市および日清オイリオと新たな資源循環モデルの構築に向けた連携協定を締結

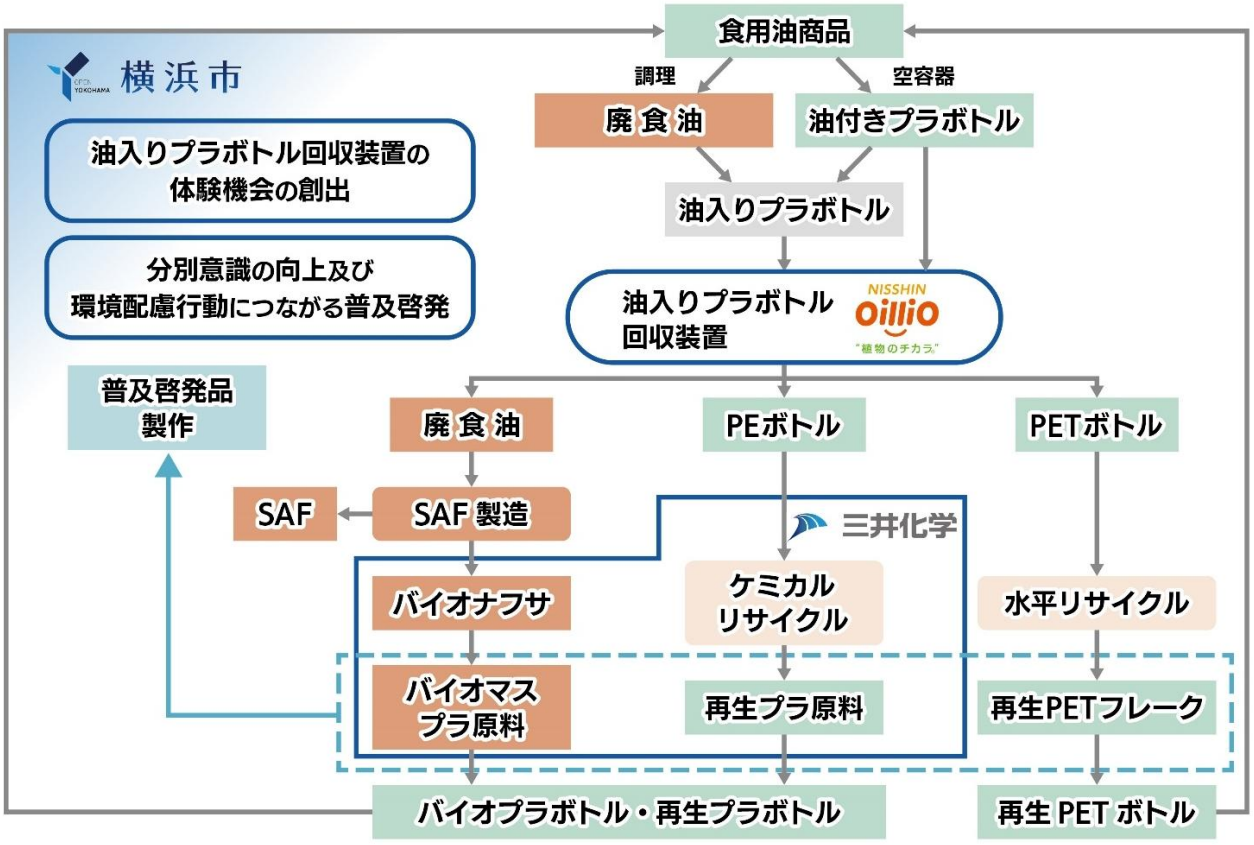
～油付きプラボトルと廃食油の回収・再資源化を通じ、資源循環の仕組みづくりを推進～

三井化学株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：市村 聡、以下「三井化学」）は、横浜市および日清オイリオグループ株式会社（以下「日清オイリオ」）と、「新たな資源循環モデルの構築に向けた連携協定」を2026 年 10 月に締結しました。

本協定は、油付きプラスチックボトル（以下「プラボトル」）および廃食油の回収・再資源化を通じた、新たな資源循環モデルの構築を目指すものです。横浜市、日清オイリオ、三井化学の 3 者は、日清オイリオが開発する回収装置を活用した実証等を契機に、プラボトルの水平リサイクルの拡大や、廃食油の有効活用に向けて連携します。

三井化学および株式会社プライムポリマー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：後藤 亨晴、以下「プライムポリマー」）は、グループが有する技術・サプライチェーンを活用し、回収した資源をプラスチック製品へとつなぐ取り組みを進めてまいります。





■本協定における主な連携事項

（1）油入りプラボトル回収装置の実証および体験機会の創出

（2）回収した油付きプラボトル及び廃食油の再資源化を通じた新たな資源循環モデルの構築

（3）市民の分別意識の向上及び環境配慮行動の実践につながる普及啓発・広報活動

■取り組みの背景と概要

家庭で使用された油付きプラボトルは、油の付着により高度なリサイクルが難しく、飲料用ペットボトルのような水平リサイクルが十分に行われていません。また、家庭から排出される廃食油についても、回収の取り組みが進められているものの、さらなる資源化の拡大が期待されています。

3 者は、日清オイリオが開発する「油付きプラボトル及び廃食油を同時に回収する装置」を活用し、回収実証に向けた検討を進めます。回収した資源については、以下の取り組みを通じて、新たな資源循環の仕組みづくりを目指します。

（1）油付きプラボトルの再資源化

回収装置内で破砕・脱油処理を行ったプラボトルのうち、PET 素材は再生ペットボトルへの水平リサイクルを目指します。PE（ポリエチレン）素材は、三井化学グループのケミカルリサイクルチェーンを活用し、再生プラスチック製品としての再資源化に向けた検討を進めます。

（2）廃食油から燃料・プラスチック原料への活用

回収した廃食油は、持続可能な航空燃料（SAF）への資源化拡大を目指します。さらに、SAF 製造時に連産品として製造されるバイオマスナフサにも着目し、三井化学グループの技術を活用しバイオマスプラスチック原料としての利用に向けた検討を進めます。

（3）市民参加による資源循環の推進

再資源化素材を活用した普及啓発品の製作や、市内における体験機会の創出を通じて、市民の分別意識の向上や環境配慮行動の促進を図ります。

■今後の展開

三井化学は、「炭素の由来を見直す」ことを通じて、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミー社会の実現への貢献を目指しています。三井化学およびプライムポリマーは、横浜市、日清オイリオをはじめとする関係者との連携を通じて、回収から再資源化、素材の活用までをつなぎ、資源循環のさらなる推進に貢献してまいります。

■参考：横浜市記者発表資料（令和 8 年 11 月 10 日）

以上

＜お問合わせ先＞

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL：03-6880-7500

お問合せフォーム https://form.mitsuichemicals.com/corporate/cc_pr_csr_ja

株式会社プライムポリマー 企画管理部経営企画グループ

お問合せフォーム https://www.primepolymer.co.jp/jp/contact/index.html